対象：幼児期の子どもをもつ保護者

 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 時間：５０～７０分程度

|  |  |
| --- | --- |
| ねらい | ○　子どもの体力低下の原因について考え、発達段階の特性から、幼児期に様々な運動や遊びをすることの大切さを認識する。○　家庭でできる体を使った遊びを体験し、子どもと実践してみようという気持ちをもつ。 |
| 実施のポイント（評価など） | ○　子どもを取り巻く環境の変化から、意図的に体を使った遊びをすることの必要性に気付くことができる。○　幼児期に継続的に体を使って楽しく遊ぶことが、大人になってからの身体活動や健康に影響を与えることを理解することができる。 |
| 事前準備 | ○　筆記用具　　○　ワークシート　　○　アンケート用紙（必要に応じて）○　資料　　○　タオル（１人１枚持参。フェイスタオルが望ましい。）　○　新聞紙（準備できる場合のみ。１人１部程度使用する。）　　○　※ガムテープ（またはセロハンテープ）　　○　※ごみ袋　※新聞紙を使った遊びを体験する場合のみ○　あらかじめ４名程度のグループに分かれておく。 |
| 時　間 | 学習活動 | 学習活動のねらい（◎）とポイント（・） | 準備物 |
| 　　　　　10分**導 入** | ・ワークの趣旨説明・３つの約束・アイスブレイク（自己紹介） | ・自己紹介の中で、自分が幼児期に好きだった体を使った遊び（鬼ごっこ、なわとび、三輪車など）を紹介する。 | ３つの約束 |
| 10分**展 開** | **ワーク１**・エピソードをもとにグループで話し合う。 | ◎子どもの遊びや、子どもを取り巻く環境について考えることをねらいとする。・エピソードを読んだ感想をワークシートに書いて、グループ内で発表する。 | ワークシート |
| 　　　　　　5分 | **資料紹介**・体力低下の背景に関する資料と発達特性に関する資料の説明を聞く。 | ◎子どもの体力低下の原因と幼児期に体を使った遊びをすることの重要性について知ることをねらいとする。・資料１から、子どもの体力低下の主な理由を知る。・資料２から、幼児期には、走ったり、跳んだり、投げたりなど、さまざまな動きとの出会いを楽しめるようにすることが大切なことを知る。 | 資料１資料２ |
| 15～35分 | **ワーク２**・最近、子どもが友達や兄弟と、どのような体を使った遊びをしているかを考える。・最近、親子でどんな体を使った遊びをしているかを考える。・簡単な体を使った遊びを考え、体験する。その際、子どもにかける声かけの事例も考えて実施する。 | ◎簡単な道具を使った遊びや、家庭でできる体を使った遊びがあることに気付き、実際に体験するとともに、子どもが運動を好きになる声かけについて考えることをねらいとする。・最近、子どもがしている体を使った遊びや、親子でしている体を使った遊びをワークシートに書いて、グループ内で発表する。・資料３を参考に、幼児期に身につけさせたい動きと、簡単な道具でできる遊びの例を知り、子どもと一緒にできそうな遊びと、その際に子どもにかける声かけをワークシートに書く。・グループのメンバーと２人１組になって、子どもとできそうな遊びを体験する。その際、子どもにかける声かけも実施する。※道具を使った遊び体験は、タオルを使ったものと新聞紙を使ったものを紹介しているが、どちらか一方の体験だけでもよい。・新聞紙を使った遊びを体験する場合、必要に応じてガムテープ（セロハンテープ）で新聞紙を加工する。・使い終わった新聞紙は、ごみ袋に回収する。 | ワークシート資料３の①資料３の②資料３の③資料３の④タオル新聞紙ガムテープ（セロハンテープ）ごみ袋 |
| 10分**まとめ** | **ふりかえり**・感想を記入する。・数名発表し、全体で共有する。・運動の持ち越し効果の資料の説明を聞く。 | ◎学習をふりかえり、実践への意欲を高めることをねらいとする。・今日の感想をワークシートに書いて、グループ内で発表する。・資料４を参考に、子ども時代の遊びや運動習慣が及ぼす影響を知ることで、家庭でも運動遊びをしようとする意欲を高める。 | ワークシート資料４ |